

# 街を行く

第157回 自由が丘 Jiyugaoka

## 街のSDGsを発見



駅前ロータリーの隣にある「自由が丘デパート」と地元商店街「ひかり街」

東急東横線の渋谷から急行で3つめの駅が、「住みたい街」ランキングでいつも上位にいる自由が丘です。

改札を出ると北側がロータリー、南側が商店街。郊外エリアの住宅街は駅を跨いでどちらか一方に発展が偏る傾向がありますが、この街は例外です。両サイドともに開かれた明るい印象を受けます。

もっとも、この街を「郊外エリアの住宅地」に位置付けること自体「待った」をかけたい人もいでしょう。たしかにそうした地域は閑静な佇まいで、一歩足を踏み入ると落ち着いた気分になります。そのぶん「遊ぶ」「楽しむ」「学ぶ」要素に乏しく、住人はそうした用事を他の商業エリアで済ませます。

対して自由が丘は、住宅と商業がほどよくミックスした“独立した街”を形成しています。閑静さはあまりなく、繁華街で時間を過ごした後訪れても雰囲気の変化に気づきません。

ただ実のところ筆者は、進化した住宅地を、街としては問題があるのではないかと考えています。否定したいという意味合いではなく「街の役目が変わってしまった」ことにたいして一株の疑問があるのです。

自由が丘は昔と違い、都心高級住宅地に引けを取らない高級な街、庶民の手の届かない高嶺の花に変わりました。リテールの視点からみると「渋谷に近いおしゃれな住宅地」から渋谷の冠がとれ、住宅地のカテゴリからも外れ「おしゃれな自由が丘」に進化しています。では以前はどうだったのでしょうか？

その名残が駅前ロータリーの隅にある「自由が丘デパート」です。建物は地元商店街「ひかり街」へつながり、通りの両サイドに洋品、雑貨、宝石、総菜、和菓子などありとあらゆるお店がひしめいています。昭和にタイムスリップしてきたような懐かしさ、コリドーが残っていたことへの嬉しさがこみ上げ、何と

もホッとする良い気分になります。

デパートの隣では現在複合施設の開発が進んでいますが、完成後この空間がどうなっていくのか楽しみです。考えてみれば、街づくりで一番考えなければならないのはSDGsです。このデパート周辺の佇まいこそがそれなのではないでしょうか。ホッとする空間があれば、街はそんなに進化しなくてもよいと思うのですが。

### 南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。